

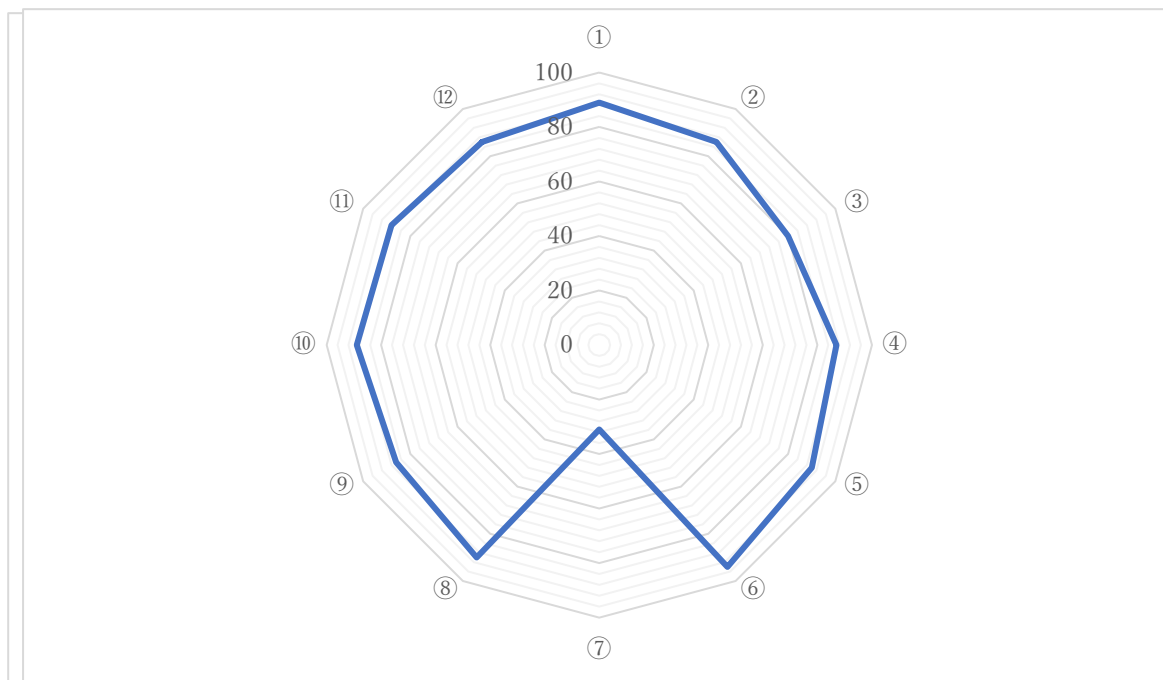
自己評価集計結果

<評価方法>

評価を4段階とし、項目を①~⑫に分け、それぞれの合計点をだす。

下記の集計表及びレーダーチャートは、回答した保育者の点数の平均点を表示している。

		R5 10月 回答数 15名	R6 2月 回答数 15名
評 価		平均点	平均点
I 保育の基本的 理念と実 践に係る観点	① 子どもの最善の利益の考慮（6項目）	90	89
	② 子どもの理解（9項目）	78	86
	③ 保育の環境（人・物・場）の構成（7項目）	76	80
	④ 保育士等の子どもへの関わり （援助・行動・言語・位置・タイミング・配慮等）（7項目）	85	87
	⑤ 育ちの見通しに基づく保育（8項目）	88	90
II 家庭及び地域社会との連携や 子育て支援に係る観点	⑥ 入所する子どもの家庭との連携と子育て支援（8項目）	88	94
	⑦ 地域の保護者等に対する子育て支援（4項目）	23	31
	⑧ 地域における連携・交流（4項目）	89	90
III 保育の実施運営・体制全 般に係る観点	⑨ 組織としての基盤の整備（8項目）	86	86
	⑩ 社会的責任の遂行（3項目）	88	89
	⑪ 健康及び安全の管理（12項目）	89	88
	⑫ 職員の資質向上（6項目）	86	86



まとめ

②⑥に関しては、月に一度の会議で配慮のいる園児や保護者について、話し合う時間をとるようになった。そこで家庭の背景やその子や親の様子を共通理解できるようになり、前回よりも高い得点になったと考えられる。③に関しては、各部屋・園舎内外の掃除や加湿器・空気清浄機の手入れなど、子どもの物的環境を整える事が保育の質につながる事を再確認し、清潔の意識を高める必要がある。⑦⑧に関しては、今年度は慈恵荘、東大村小学校との交流を多く持つことができた。来年度も引き続き、年間計画の中に様々な地域施設との交流を盛り込んでいく。⑩に関しては、ホームページに載せる写真や、園での感染症の流行情報をお知らせする際、個人が特定されないよう十分気を付けていく。